

中学校 美術科 学習指導案

指導者 守屋 邦映

日 時 令和7年6月24日(火) 第5・6限 13:25~14:15/14:25~15:15

場 所 美術教室

学年・組 中学校1年C組 40人(男子20人 女子20人)

題 材 ひとり1色図鑑—この色にかけては、誰にも負けない!—

- 目 標
1. 色の特徴や性質を理解する。(知識及び技能)
 2. 色が心にもたらす働きや生活との関わりなどについて考えることを通じて、色に対する見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)

指導計画(全3時間)

第一次 色の二大別と三属性・・・・・・・・・・・・ 1時間(本時)

第二次 色図鑑の制作・・・・・・・・・・・・ 2時間(本時1/2)

授業について

本題材は、中学校学習指導要領美術編第1学年B鑑賞(1)イ(ア)「身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。」、及び【共通事項】(1)ア「形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。」に基づき設定している。

私たちは日々多くの色に囲まれて生活しているが、それを意識的に捉える機会は少ない。しかし、色は見た目を美しく整えるだけでなく、心理や行動にも働きかける重要な要素である。そのため、色の持つ性質や特徴について理解する事は、美術の学習にとどまることなく、心豊かな生活を送っていくためにも必要不可欠である。本題材では生徒が関心のある色から一つ選び、その色について様々な視点で調べワークシートにまとめることを通して、色の二大別や三属性などの色彩理論や色と生活との関わりなどを総合的に学ぶ。調べたことは個人の図鑑ページとしてまとめ、学級で一冊の色図鑑として共有する。「自分の選んだ色を深く知る」という明確な目的意識を持ち、調べることの楽しさや自分なりに知識を意味づけて整理する過程に力点を置いている。これは、将来の発展的な探究活動に向かうための土台に位置づくと考える。

本校では、例年中学1年生の1学期に色彩学習を行っており、それ以降も他の題材で着彩や構成の場面において、色の知識を用いる機会が多い。しかし、言葉としては覚えていても、意味を理解し活用できていない生徒も多く見られる。そのため、本題材では単なる知識の伝達ではなく、色が持つ性質や印象の違いを体感したり、自分の視点で分類や考察を試みたりする活動を通じて、「わかる」から「使える」への深化へつなげたい。また、本学級の生徒が現在取り組んでいる平面構成の構想と本題材を結びつけ、より説得力のある表現へつなげることもねらう。

教具については、GIGA端末と色彩学習ソフト「色彩事典」を活用する。「色彩事典」は、生徒一人ひとりが画面を操作しながらより直感的に色彩の変化や印象の違いなどを体感できるという利点がある。本題材ではこの利点と、知りたいと思う情報を瞬時に得られるというGIGA端末の強みも活かし、色について深く探求できる個別最適化された環境づくりを図る。

題 目 個別最適化された学びを目指した色彩学習の提案

本時の目標

1. 色の特徴や性質を理解する。(知識及び技能)
2. 色が心にもたらす働きや生活との関わりなどについて考えることを通じて、色に対する見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)

本時の評価規準（観点／方法）

- 色の特徴や性質を理解している。（知識・技能／観察、ワークシート）
- 色が心にもたらす働きや生活との関わりなどについて考えることを通じて、色に対する見方や感じ方を広げている。（思考・判断・表現／観察、ワークシート）

本時の学習指導過程（50分+50分 計2時間）

学習内容	学習活動	指導上の留意点
1時間目(導入) ●日常の事例から、色が心にもたらす働きについて考える(5分) (展開1)	○身の回りの色の意味や効果について考える。 (引っ越しの段ボールが白いのはなぜ？扇風機の羽、プールサイドはどんな色が多い？など)	・色に対する共通感覚が生活にどう生かされているかを実感できるようする。 ・色の学習は「美しさ」だけでなく「意味や機能」にも関わることを示す。 ・理由は個人的な考えでよいが、誰もが納得する分け方に挑戦させる。 ・各生徒の考えを全体で共有するための準備をGoogle classroom しておく（「課題」の活用）。 ・生徒の視点もいくつか紹介しながら、最終的に「無彩色」と「有彩色」という色の二大別に気づかせる。
●色の二大別を体感する(20分)	○「色彩事典」を用い、複数の色(21種)を2グループに分別する。 (熱そう/冷たそう、元気/おとなしめ、など)分類ができたら、理由をきちんと書き、各自画面をスクリーンショットしたのちGoogle classroom に提出する。 ○考えの共有(二大別について)	・理由は個人的な考えでよいが、誰もが納得する分け方に挑戦させる。 ・各生徒の考えを全体で共有するための準備をGoogle classroom でおく（「課題」の活用）。 ・生徒の視点もいくつか紹介しながら、最終的に「無彩色」と「有彩色」という色の二大別に気づかせる。
●色の三属性を理解する(15分)	○色彩学習ソフトを用い色の三属性についてそれぞれ体験的に理解する。 ・色相 クイズ「この色の色相は何？」 ・明度、彩度については、2色を比較し、それぞれの高低や強弱を考える。	・「色彩事典」の「色分けゲーム」で三属性ごとの活動が可能なため、それぞれの説明に活用する。 ・「目を細めて見る」「目に飛び込んでくる印象で判断する」など、感覚的な視点をその都度与える。
●色の三属性に対する理解確認を行う(10分)	○提示された色を見て、三属性を言い当てる。または、三属性の情報から色を推測する活動を行う。	・「色彩事典」の色立体や色相環を使いながら、言語と視覚を結びつけて理解させる。
2時間目(展開2) ●色図鑑の活動説明(5分) ●色図鑑を制作する(40分) まとめ ●次時の確認(5分)	○活動内容を確認する。 「選んだ色について様々な視点で調べ、図鑑にしてまとめる」 ○選んだ色について、複数の視点からiPad や書籍等で調べ、ワークシートにまとめていく。(色の三属性、心理的効果、他の色との関係、配色、日常生活での使われ方など) ○まとめた内容を班内で共有する。 (今日知って面白かったこと、他の人に伝えたいことなど)	・例を提示し、図鑑としての見やすさや読みやすさも注意するよう促す。 ・色彩図鑑として、全員分の成果物をまとめることがゴールであることを強調する。 ・次時は、班を超えて交流することを伝え、見通しを持たせておく。
準備物 生徒：教科書（日本文教出版）、美術資料（秀学社）、クロッキー帳、iPad、筆記用具、デザインセット 教師：PC、電子黒板、iPad、色彩学習ソフト、ワークシート、色鉛筆		

ひとり1色・色の探求図鑑

—この色にかけては、—
誰にも負けない！

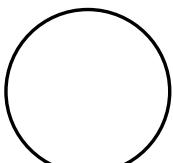
() 年()組()番 氏名()

色えんぴつ、または「色彩事典」の「カラーカード」から1つの色を選び、その色について調べ、整理し、色のしくみや効果、心にもたらすはたらき、生活とのかかわりなどについて理解を深めよう。

色と科学（色がもつ性質について）

選んだ色

色の名前：_____



カラーコード（一番近い色）
(#)

色の
3
要素

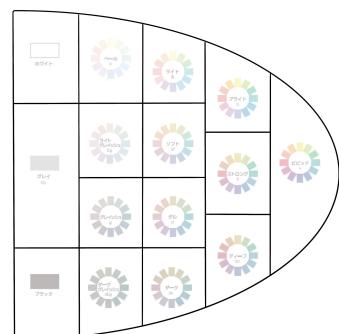
色相 _____ 系

明度 低 | ----- | 高

彩度 低 | ----- | 高

- 類似色 ○○
- 対照色 ○○
- 補色 ○

トーン



色と「もの」、「こころ」の関わり

①選んだ色から思い浮かぶ「もの」を挙げて
みよう（5個以上）

②思い浮かんだ「もの」から感じたこと（気持ちや印象など）



色とファッション（私たちの印象をつくる色の力について）

自分が選んだ色をファッションに取り入れると
どんな印象を与えるかを考え、絵と言葉にまとめよう。

コーデ名：『
こだわり

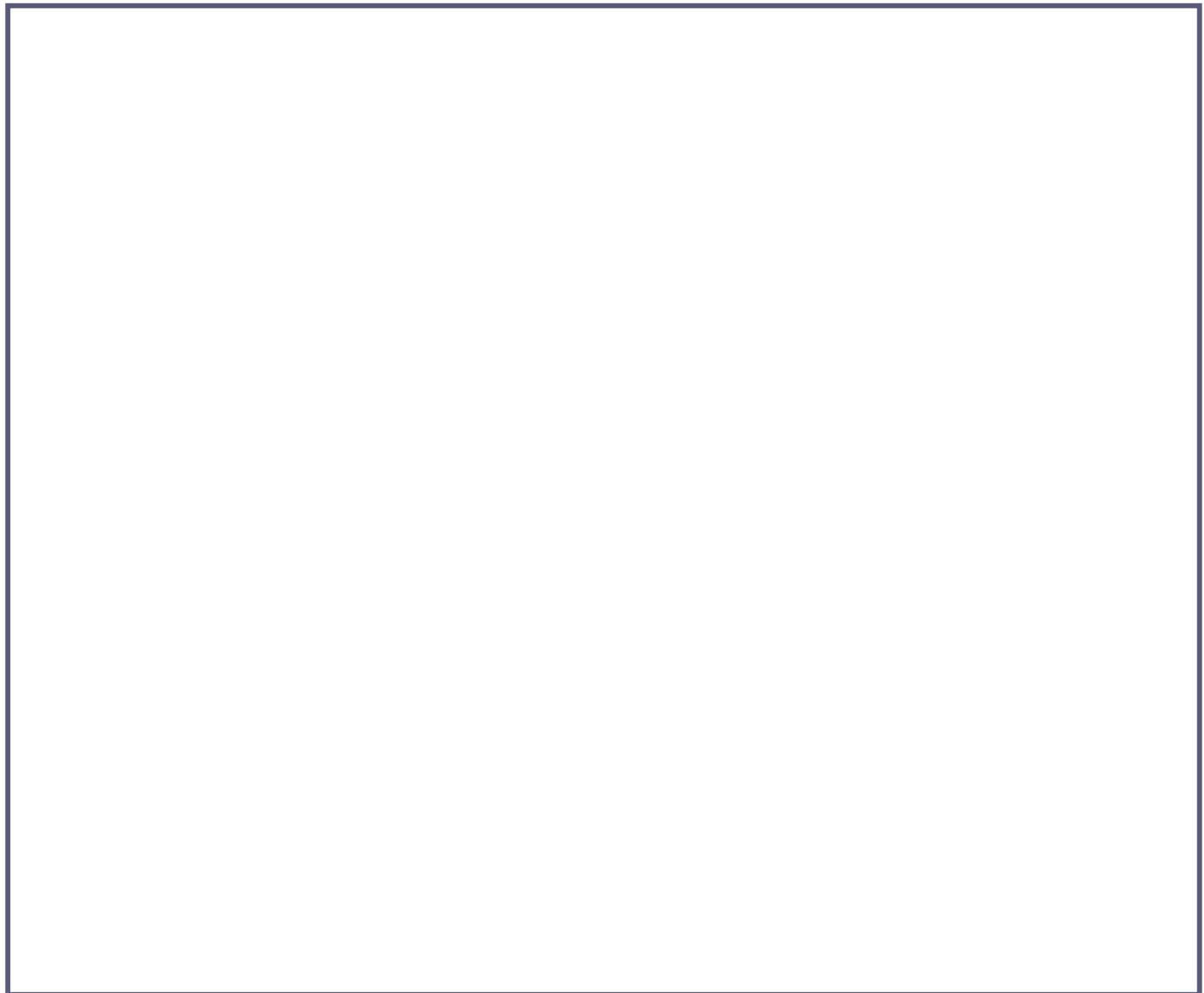


色と()

()内を自分で設定し、選んだ色が生活で生かされている例を一つ見つけなさい。

見つけたもの

図や写真など



色がもつ役割

A form with three dashed horizontal lines for writing down the roles colors play.

実践上の留意点

1. 授業説明

本題材の目的は、身边に存在しながらも奥深い「色」というテーマを通して、生徒が色に対する理解を深め、美術における見方・感じ方を広げることである。特に、自分の好きな色を起点に展開することで、色彩に対する感性を尊重しながら、理論的な知識との結びつきを図ることをねらいとしている。本授業では色の三属性や心理的効果、生活との関わりについての知識を多角的に調べ、それを図鑑形式で整理・可視化する活動を行った。完成した成果物はクラス全体で共有し、他者の視点に触れる機会を得て気づきの広がりや知識の再構築にもつながるよう意図した。

色図鑑の構成においては、表面に選んだ色の三属性や補色・対照色の整理、感情との関わりやファンションとの関係について記述させた。心理的な効果やイメージを考える中で、「この色は元気な気持ちになる」「寒く感じる」「落ち着く」といった感覚的な表現を、自分の言葉で記述することを重視した。さらに、裏面ではその色が使われている日常の事例（学校や家、街中、広告、商品パッケージなど）をイラストや言葉で紹介し、色と生活の関係を実感として捉える視点を促した。たとえば、青を選んだ生徒が「自販機や制服、ランドセルにも多く使われている」と発見したり、赤を選んだ生徒が「非常口の表示に使われている」と気づいたりするなど、学びが生活に接続されていく様子が見られた。今回は扱わなかったが、今後の発展的な展開として、「この色が使われている名画や芸術作品を調べる」「自然界にこの色が存在するかを観察する」などの視点も考えられる。こうした要素を取り入れることで、美術史や自然観察といった他教科的な学びと接続し、より豊かな色彩理解を促すことも可能になるとと考えられる。

また、今回は初の試みとして色彩学習ソフト「色彩事典」を活用した。「色彩事典」は生徒一人ひとりが自分の端末で直感的に色の違いや組み合わせを操作できるため、個別最適な学びの一助となった。本ソフトは、今回の授業にとどまらず色の知識確認や制作活動における色選びにおいても活用していくたいと考えている。

2. 研究協議より

授業構成において「感覚→知識」の流れが印象的だったとの指摘があった。また、「扇風機は青がいい」「緑が落ち着く」などの生徒の自由発言に対して、それぞれの意見を丁寧に拾い、背景やエピソードを引き出す様子も注目された。美術科における鑑賞活動では、知識の共有より先に生徒の感覚的経験を引き出すという学習の流れは題材を問わず留意している点である。

加えて、授業中盤に行った色の三属性を見極めるゲーム的な活動が、知識の定着を促す手立てとして有効だったことや、「宅配物の色が明るい色が多いのはなぜか」、「生徒手帳に書いてあった色指定はこういうことだったのか」など、身の回りの生活に着目させる指導が生徒の気づきを引き出していた点についても肯定的な意見をいただいた。

一方、課題として挙げられたのは、色鉛筆による色の再現の困難さである。特に中間色や高彩度の色では表現が難しく、意図した印象が伝えきれないケースが見られた。今後は、「選んだ色について語るプレゼン資料」を iPad で作成するなど、デジタルで完結する探究表現も選択肢に加えることで、学びの幅と深まりがさらに増すと考えられる。